

女性から女性サブタイプへのネガティブな態度

—ジェンダー・アイデンティティと性役割観からの検討—

○覃宝妮¹・森永康子¹

(¹広島大学大学院教育学研究科)

キーワード：性役割観、女性サブタイプ、ジェンダー・アイデンティティ

Women's attitude toward female subgroups —the interplay of gender identification and gender role attitude

Baoni QIN¹ and Yasuko MORINAGA¹

(¹Graduate School of Education, Hiroshima University)

Key Words: gender role attitude, female subgroup, gender identification

目的

伝統的女性に比べ進歩的女性に対するネガティブな態度は規範的ジェンダー・ステレオタイプ(男は有能で外で働き、女性は優しく家庭にとどまるべき)から逸脱しているためであり、性役割観が伝統的な人ほど進歩的女性に対する態度がネガティブであることが示されてきた(Carter et al., 2006 など)。こうした女性サブタイプへの態度は男性だけでなく女性も持っているが(Becker, 2010)、キャリア女性への態度のほうがポジティブであるという結果も見られている(Wade & Brewer, 2006)。性役割観が進歩的な女性ほど伝統的女性に対する態度がネガティブである可能性がある。

本研究は女性のジェンダー・アイデンティティ(gender identification: GI)にも焦点を当て、女性的女性に対する態度を検討する。GIが高い女性は、集団内の女性の行動を内在化した性役割観と関連させるので、自分の性役割観を基準として他の女性を評価し、他の女性にも同じような思考や行動を求める。これに対して、GIが低い女性はあまり自分の性役割観を基準として他の女性を評価しない。

仮説1. GIが高い女性では、性役割観と一致しない(vs. 一致する)女性サブタイプへよりネガティブな態度を持つ。つまり、性役割観が伝統であるほど、キャリア志向女性(CW)によりネガティブな態度を持つ。逆に性役割観が進歩的であるほど、家庭志向女性(HW)によりネガティブな態度を持つ。仮説2. GIが低い女性では、性役割観が女性サブタイプへの態度に影響しない。

方法

参加者 日本の女子大学生 266 名 (平均年齢 21.1 歳)。

条件 家庭志向女性条件(HW 条件) 79 人、仕事志向女性条件(CW 条件) 187 人。ネット調査を行った。

質問紙の構成 (1)GI: Becker & Wagner (2009) に基づいて作成 ($\alpha = .781$) (2)性役割観: SESRA-S (鈴木, 1994) を一部修正 ($\alpha = .869$) (3)刺激人物: HW vs. CW (4)刺激人物への態度 ($\alpha = .869$) (5)操作チェック(1)から(4)の回答は 6 件法。

結果

態度を従属変数とし、条件、GI、性役割観及びそれらの交互作用を独立変数とする重回帰分析を行なったところ、条件の主効果及び条件×GI×性役割観の交互作用が有意であった ($ps < .05$)。交互作用の下位検定の結果を Figure 1 に示した。

全体を通して、CW は HW よりポジティブな態度をもたれていた。高 GI 女性では、性役割観が伝統的であるほど、CW によりネガティブな態度を持ったが、HW への態度は性役割観の影響は見られなかった。低 GI 女性では、性役割観が伝統的であるほど、CW によりネガティブな態度を持った。逆に性役割観が進歩的であるほど、HW にネガティブな態度を持った。仮説 1 は一部分支持されたが、仮説 2 は支持されなかった。

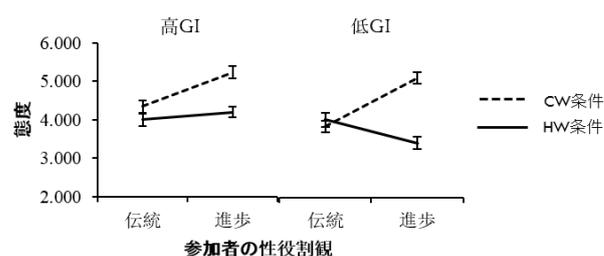


Figure1 性役割観とジェンダーアイデンティティが女性サブタイプに対する態度への影響

考察

全体的にCWはHWよりも女性からの態度がポジティブであり、Wade & Brewer (2006) と同じような結果であった。これは、現代は性役割観が進歩的になっているためではないかと考えられる。

高GI女性では、仮説は一部支持され、性役割観が伝統的であるほど、CWへよりネガティブな態度を示したが、HWへの態度は性役割観によって異ならなかった。高GI女性は女性集団のよいイメージを維持するため、より集団行動をし、他の女性を支援する意欲が高いため、(Derks et al., 2011)、進歩的な性役割観を持っていても、HWにそれほどネガティブな態度を示さなかったのではないだろうか。

低GI女性の場合には、仮説に反して性役割観が女性サブグループへの態度に有意な影響を与えていた。低GI女性は、あまり自分の性役割観を基準として他の女性を評価しないと考えていたが、女性集団と同一視せず、進歩的な性役割観を持つ女性の場合には、伝統的な性役割をもつとされる女性集団(HW)に対して、カテゴリー化脅威を経験(女王蜂症候群; Derks et al., 2016)したのではないだろうか。高GIで進歩的な女性がHWに対してそれほどネガティブな態度を示さなかったのは、カテゴリー化脅威を感じなかったためかもしれない。

また、CWに対しては、GIの高低に関わらず、回答者の性役割観が影響しており、伝統的であるほどネガティブな態度であった。GIと性役割観がCWとHWに対する態度に異なる影響があり、その影響のメカニズムも異なることが考えられる。そのため、今後はCWとHWを分けて検討する必要があるだろう。

引用文献

- Becker, J. C., & Wagner, U. (2009). *European Journal of Social Psychology*, 39, 487–508.
- Derks, B., Van Laar, C., & Ellemers, N. (2016). *The Leadership Quarterly*, 27, 456–469.